

本 会 記 事

1. 昭和 62 年度総会並びに研究発表会

四国植物防疫研究協議会の昭和62年度総会ならびに研究発表会は、約170人の参加のもと、11月16日、17日の両日、善通寺市の善通寺グランドホテルで開催された。

1) 総会

16日午後1時から開かれ、昭和61年度会務報告が承認された後、昭和62年度の事業計画及び予算案が上程、承認された。

2) 研究発表

16日午後1時50分から17日12時まで、以下の17題の講演が行われた。

1. ○真山滋志・笹辺幸男・大石康晴・反保宏行・谷 利一（香川大農）
組織培養法による毒素（ピクトリン）耐性エンバクの選抜育種
2. ○後藤孝雄・稲葉忠興（四国農試）・後藤正夫（静岡大）
氷核活性細菌による凍害に対する殺菌剤の防止効果
3. 大原一能（香川県病害虫防除所）・片山俊郎・吉見里子・○末富敬止郎（武田薬品）
イネ紋枯病菌のバリダマイシンA感受性検定の一事例
4. ○渡辺丈夫・山内正幸（香川農試三木分場）
夏どりチンゲンサイの害虫防除について
5. ○北村正和・夕部益男（中村病害虫防除所）・松崎征美（南国病害虫防除所）
ハウスキュウリに発生したホコリダエの1種とその被害について
6. 行成正昭（徳島県果樹試験場）
ヤマモモの果実を加害するショウジョウバエについて
7. 藤田育資（阿南地方病害虫防除所）
徳島県南におけるスクミリンゴガイの生態と防除
8. 佐々木善隆（香川農試）
ビレスロイド剤抵抗性コナガの薬剤防除
9. ○村井啓三郎・大崎憲生・青木征男・梅津憲治（大塚化学農業生物科学研究所）
新規カーバメイト殺虫剤オリオン（OK-135）のアブラムシに対する効果
10. ○若村定男（四国農試）・高井幹夫（高知農林技研）・香西修治・井上 斉（四国農試）・山下 泉・川原幸夫（高知農林技研）・川村 満（高知県植防協会）
合成性フェロモンによるシロイチモジヨトウの防除
(1) 露地ネギでの大面積処理による交信攪乱効果（予報）
11. ○高井幹夫（高知農林技研）・若村定夫・香西信治・井上 斉（四国農試）・山下 泉・川原幸夫（高知農林技研）・川村 満（高知県植防協会）
合成性フェロモンによるシロイチモジヨトウの防除
(2) 施設ネギにおける交信攪乱効果（予報）
12. 横山好史（南国農業改良普及所）
高知県南国市におけるハスモンヨトウフェロモントラップの広域設置とその結果について
13. ○山下 泉（高知農林技研）・松崎征美・土田 建・飯野尚之（南国病害虫防除所）
晩期稲の田植時期とイネミズゾウムシ第2世代の発生量
14. ○山崎康男・松岡隆宏・高山昭夫（愛媛農試）

セジロウンカが多飛来による被害と箱施用剤の効果

15. ○後藤孝雄・稲葉忠興（四国農試）

キャベツ黒腐病の傾斜地における伝染様式

16. 上田 進（愛媛県農業指導課）

ムギ赤かび病の発生と気象および病原子のう胞子採集数との関係

17. ○後藤昭文・須藤真平・日和田太郎（徳島地方病害虫防除所）

タバコ黄斑えそ病の発生機構に関する知見

3) 特別講演

16日4時から5時30分まで、愛媛大学浅田泰次氏による「生体防御システム —植物の病気はなぜ自然治癒するのであろうか—」、四国農試小山重郎氏による「害虫の総合防除」の講演が行われた。

4) 協議

17日9時から10時まで、昭和62年度の病害虫発生の特徴とその対策並びに防除上の問題点につき、各県防疫係の各氏より報告が行われた。

2. 次年度大会

昭和63年度総会及び研究発表会は徳島県が担当し、昭和63年11月中旬に徳島市において開催されることが決められた。